

仮訳

タイ水産局（DOF）、FDA や原子力庁（OAP）と協力し、日本からの輸入水産物の監視策を実施
消費者からの信頼を高める

日本の福島第一原子力発電所の廃炉作業において、福島第一原子力発電所から処理済みの放射能汚染水の海洋放出を開始した 2023 年 8 月 24 日以降、タイ消費者より、日本からの輸入水産物の安全性に対する不安の声があったことから、

DOF のターウォン・タンチャイ 副局長兼水産局広報官は、これまで DOF、FDA、OAP が協力し、各機関の管轄の下、継続的に放射性物質が残留する可能性のある日本からの輸入水産物（注：原典ママ）をランダム検査し、輸入検査所および国内の日本食レストランの輸入水産物を徹底的に検査していると明らかにした。なお、DOF は FDA から業務を移行され、冷蔵・冷凍の魚、エビの検査をしている。イカ、貝類、カニなどのその他の水産物は FDA が検査を担当し、OAP は分析機関として検査を行っている。

2023 年度（2022 年 9 月～2023 年 10 月）（注：原典ママ）の実績では、DOF と FDA はセシウム 134（Cs-134）およびセシウム 137（Cs-137）を検査分析するため、水産物 135 件のサンプルを分析用に提出し、検査を行った。内訳は、航空便および船便による輸入検査所から 105 件、国内の日本食レストランから 30 件のサンプルで、魚、エビ、イカ、貝類、カニ、加工食品の検査を行った。輸入水産物のサンプルを検査した結果、放射性物質は検出されていない。よって、消費者は日本からの輸入水産物の安全性、および水産局や関連機関の監視策を信頼していただきたい。

また、同広報官によると、現在、DOF、FDA、OAP は 2024 年度（注：タイの公的機関においては 2023 年 10 月から 2024 年度となる）における日本からの輸入水産物の監視策の計画策定を完了させ、2023 年 10 月から現在までサンプル検査を継続して行っていると発表した。国民には、政府機関が継続的に監視していることから安心してほしい。DOF は検査の実施にあたって、国内外の情報収集を行っている。

消費者においても、水産物に関して汚染されている可能性があるまたは安全性に関して疑いがある場合は、DOF ホットライン水産局水産検疫・漁船検査課（Fish Quarantine and Fishing Vessel Inspection Division）0-2579-1878 と 0-2579-3614-5 まで通報すること。

※注：原典には検査の様子の写真あり。

【免責条項】

この日本語訳は、タイ政府による公式日本語訳ではなく、情報提供を目的に、ジェトロバンコク事務所が作成した非公式なものです。正確性を保証するものではありませんので、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

原典については、下記をご覧ください。本 URL は 2023 年 11 月 13 日時点で有効であることを確認しておりますが、今後 URL が変更・削除される可能性もございます。

https://www4.fisheries.go.th/dof/news_local/1210/197633